

パラリンピックのご報告

津川 智江

パラリンピックについては、報道等の発表資料を元に皆さまにお伝えしておりましたが、この度、ご家族の方から大会の様子等についてご報告を頂きましたので、ご紹介させていただきます。

ヒースロー空港に到着して税関を抜けるとそこからは、ピンク&パープルの今大会テーマカラーで彩られた案内板と、ユニフォームを着た沢山の案内ボランティアの方たちがいて、ロンドンの街は、世界中から沢山の人が集まり大変な盛り上がりでした。

わくわく、どきどきの100m背泳ぎ当日は、オリンピックパーク会場に最寄りのストラトフォード駅に着くと、立ち止まると誘導の係の方に注意されるぐらい大勢の人で、私たちもはぐれないように気をつけながら会場入口まで進みました。

まず、観戦チケットのチェックが行われ、そこでは空港を通過するのと同じくらいの厳しいセキュリティチェックでした。そして競泳会場に着くまでにチケットのチェックが、あと数回あり、ストラトフォード駅から通常なら10分程度で着くはずなのですが、当日は駅から競泳会場の自分の席に着くまでに1時間ほどかかりました。

会場では、競技開始前からアナウンサーによって盛り上げられ、観戦者も一体になりハイテンション！選手が入場すると隣との会話が出来ないぐらいの歓声です！拓也が入場して来たときには必死で叫びました。「拓也！がんばれー！」と何度も、何度も。コース台の前に立つと、いつも大会でする、おきまりの体をほぐす為の体操をしてホイッスルに合わせて入水、バサロスタートもうまくいき、50mの折り返しまでは、いつものように…そして残り25mのいつもなら伸びやかにタイムが上がってくところが…。前日までのコーチからの連絡では、絶好調だと聞いていたので10位の結果に驚くというよりは、放心状態でした。何が原因だったんだろうと、あれやこれやと考えました。決勝レースまでの時間、パーク内で3人で気を取り直そうと色々話し合いました。チームJAPANの応援を頑張ろうと気持ちを切替えて観戦していると、100m背泳ぎ決勝の20分程前にコーチから電話があり、「ルール通り、補欠2番で待機していたところ、決勝レースの選手が一人来ていない。そして補欠1番の選手も来ていなくて、拓也君が呼ばれ招

集所に入って行きました。ひょっとすると決勝レースを泳ぐかもしれません。未定ではありますが・・・」電話を受けてから電光掲示板にスタートリストが出るまでは、3人で驚きと期待そして冷静に考えれば、世界最高峰のパラリンピックでそんなことが起こる訳がないとか・・・ものすごいスピードで色んな考えが頭の中を回ってました。そして電光掲示板に拓也の名前を見たときは、「奇跡が起こった!!!」と3人が叫びました。それも4コース！（※注）日本を発つ前にオリンピックの映像を見せながら「決勝レースの時は、ここから一人ずつ出るんだよ、大きく手を上げてニコニコ出てきてね」「背中は、真っ直ぐ、手を振って歩いてね」「泳ぎ終わったら、マイクの前でお話しするから、レースメモに書いていることを言ったらいいよ」と母と練習していたとおりに、ちゃんとやれていたことに感激！感動！しました。結果は、自己ベストタイが出ていれば銀メダルただただに残念な気持ちもありますが、あの歓声の中、初めての場所、大きな音の苦手な拓也が、いつも通りにやろうと頑張っていた気持ちが、充分伝わって来て、私は心が痛い程でした。現地では、会えなかったので予選レースよりタイムを上げて10位から6位に上げたことを帰国してから誉めてやるととても喜んでいました。

1日空けての200m自由形は、専門の背泳ぎでもタイムを落としていましたので、調整のピークが大会前に合ってしまったのか、会場の雰囲気にも飲まれてしまったのか、分かりませんが残念な結果でした。

パラリンピック初挑戦のロンドン大会は、私たちに沢山のことを教えてくれました。小さな頃から出会い関わって頂いた方々の支え、応援、気持ちを頂いてきたことで出せた結果だと思います。これからも、拓也が見つけた大好きな水泳を続けられるように家族で支えてやりたいと思います。

とても生真面目な拓也を手本に一日一日を丁寧に活動し、その結果として次のリオが見えてきたらこの上ない幸せです。



みなさま、本当に多大な支援と応援をありがとうございました。

津川 智江

(※注)

競泳の場合、選手自身や他の競技者が発生させた波の影響を受けにくい中央よりの4コース、5コースが